

2024年5月24日

## 2023年度 TJUP グランドデザイン検討会報告書

TJUP 幹事会

2023年度の TJUP グランドデザイン検討会を、以下に記載の通り実施いたしましたので、ご報告いたします。

### 1 はじめに

TJUP の会員校（大学・短期大学）が所在する地域では、若年層の流出が多く、今後人口の減少と高齢化が急速に進行すると考えられています。そこで、自治体、企業、市民、大学等が一体となって地域の活性と自立的発展を推進するため、2018年「地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代を支援する」というビジョンの下に、「多様な高度教育の展開」「生活しやすい地域づくり」「地域産業の活性化」の目標のもと TJUP が設立され、2023年度で活動は6年目となりました。

TJUP の活動の基本方針は、2023年度までの TJUP 中長期計画に明記されておりますが、2018年（平成30年）11月26日に出た中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の内容をまさに先取りしたものとなっております。

2023年度は、自治体会員、事業者等会員との更なる連携強化のため「地域や産業界との協力・連携から TJUP の可能性を考える」を全2回の共通のテーマとして設定し、上記中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の内容を踏まえ、すべての関係者が忌憚なく議論を交わす場として TJUP グランドデザイン検討会（以下「検討会」という。）を開催いたしました。2023年度の日程及びテーマ等は以下のとおりです。

### 2 2023年度検討会の開催スケジュール、テーマ、参加者数等

#### ① 第1回検討会（参加者：TJUP 会員 33名）

日 時：2024年2月27日（火）14：00～15：00 オンライン開催

テーマ：「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿—高等教育と社会の関係①

地域や産業界との協力・連携から TJUP の可能性を考える」

担 当：立正大学地球環境科学部環境システム学科教授、研究推進・地域連携センター長 後藤真太郎

#### ② 第2回検討会（参加者：TJUP 会員 30名）

日 時：2024年3月11日（月）13：00～14：00 オンライン開催

テーマ：「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿—高等教育と社会の関係②

地域や産業界との協力・連携から TJUP の可能性を考える」

担 当：株式会社温泉道場 HR&カルチャー室・室長 小林佳奈

※各回の報告内容については、別添報告書をご覧ください。

### 3 総括

2023年度における全2回のグランドデザイン検討会では、高等教育と社会の関係から TJUP が地域に対しどのようなことができるのかをテーマに、事例紹介や TJUP に対して期待すること、共に取り組みたいことを会員同士で共有し、それぞれの立場から意見交換を行うことで、TJUP の現状や問題点をはじめ、TJUP としての使命を再確認する機会となったのではないかと考えます。

また、高等教育機関、特に大学の自発的な研究機能は、教育機能とともに、地方創生にとって極めて重要な役割を担っていると位置付けられており、活性化対象地域における長期的な高等教育の展望について、事業者等会員との連携、自治体会員との連携から、地域に対して当該高等教育機関が何を提供できるのか、地域の教育機関の将来像を見据えた上で、TJUP の可能性について考えることができました。

今後も地域における高等教育を担い、地域の課題解決に貢献できるよう、会員校のみならず、自治体会員、事業者等会員との意見交換を行いながら、さまざまな事業に取り組んでまいります。TJUP が地域に根差した恒常的な組織となるため、より地元の自治体、事業者等の皆様と更なる連携強化を図るべく、2024年度においても継続してこのグランドデザイン検討会を実施する予定です。

以上

日 時 2024年2月27日(火) 14:00~15:00 Zoom 開催  
テーマ 「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿—高等教育と社会の関係①  
地域や産業界との協力・連携から TJUP の可能性を考える」  
担 当 立正大学地球環境科学部環境システム学科教授、研究推進・地域連携センター長 後藤真太郎  
参加数 33名

## 概 要

2023年度第1回目となる検討会では、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(答申)内、『I. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿—学修者本位の教育への転換—』の「3. 2040年を見据えた高等教育と社会の関係」にある産業界との協力・連携、地域との連携をテーマに、立正大学での取り組み事例の紹介や学生が地域に出て地域を活性化していく様子などを伺いながら、「ツーリズム」「関係人口」「よそ者」「祭り」などをキーワードに、今後 TJUP として、地域社会と共になどどのようなことができるか、参加者全員で意見交換を行った。

後藤教授からは冒頭に TJUP の学生は関係人口・よそ者であり、そのよそ者が祭りに関わり、地域に根付いていくこと、その流れが潜在的にあるのが我々の地域の比企丘陵であるという話から、日本はソーシャルキャピタルのガバナンスが得意な文化であるということを神仏習合やタラコスパゲティを例に、座の文化、そろいの文化から少しずつ違うものを受け入れてきており、祭りによる人間関係の構築を利用しながら地域に根付いていくという我々日本人の特性から、立正大学での地域との災害訓練や日本農業遺産申請等を事例に、地域とのつながりを広げている取り組みの紹介があった。その後、TJUP の可能性について意見交換を行った。

主な意見は以下のとおりである。

### 【主な意見】

- ・つながりの強い地域とつながりの弱い地域があり、つながりの弱い自治体の要望をどのように TJUP 事業につなげていくか。田植え・稲刈りの手伝い、野菜の収穫はどこでもある。フットワークの良い学生はどんどん手伝っている。学生版のシルバー人材のようなイメージで、必要な地域に必要な学生を派遣ができるのではないかな。ボランティアセンターで社会の要望を聞き入れ活動をしているはずなので、そのようなところに組み込んでどうか。それによって信頼関係、仲間ができ、関係人口を使った共同事業につながるのではないかな。
- ・TJUP として地域のイベント、祭りに参加してはどうかという意見が将来構想検討チームでも出ている。祭りの担い手不足を例に、比企丘陵を例にすると空き家を安く借りられるため、安く住んでもらうことを条件に祭りに参加してもらうこともできるのではないかな。
- ・人を結びつけるために、顔の見える関係をいかにつくるか、頼まれごとは簡単に断らないことでお互い大切にしようことで関係性を築いていくことが重要である。
- ・NPO での活動や地域を巻き込んだ活動を TJUP に展開していく過程の中で組織の問題を考えると何が必要かを課題に感じている。解決のためには全て合議にするのではなく、目的を共有する組織の営業部隊のような部分、リエゾンのような立場が必要であると考えている。目的毎のワーキンググループがもっとあっても良いのではないかな。
- ・坂戸市とのにぎわいサロンは主体的に地域の方が中心になって動いてきている。行政ではなく、地域の方主体の目線から何か提案をしていければ良いのではないかな。
- ・後藤教授のお話で改めて地域との連携で大切なことは、地域に溶け込んでいく姿勢であると感じた。

以上

日 時 2024年3月11日(月) 13:00~14:00 Zoom 開催  
テーマ 「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿—高等教育と社会の関係②  
地域や産業界との協力・連携から TJUP の可能性を考える」  
担 当 株式会社温泉道場 HR&カルチャー室・室長 小林佳奈  
参加数 30名

## 概 要

2023年度第2回目となる検討会では、第1回目と同様に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(答申)内、『I. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿—学修者本位の教育への転換—』の「3. 2040年を見据えた高等教育と社会の関係」にある産業界との協力・連携、地域との連携をテーマに、株式会社温泉道場の会社の概要および事業内容について紹介いただき、併せて、現在抱えている課題や TJUP へ期待すること、共に取り組みたいことなどについてお話いただいた。その後、今後 TJUP として、地元企業と共にどのようなことができるか、参加者全員で意見交換を行った。

冒頭、小林氏より株式会社温泉道場が地域の中でどのようなことを目指しているかについて、「地域を沸かせ」のキーワードを掲げ、ローカルの中で活躍できる人材育成、リーダーの輩出を大きなビジョンとしている旨の話から、TJUP のビジョンや目的とも共通する点があり、共に地域を盛り上げていきたいという熱い想いと併せて TJUP に対してはオープンな場としての教育機関であることやリカレント教育でのサブスク型の連携大学・公開講座の協力から地域にフォーカスした連携ができればとの提案があった。さらに、まずはお互いにどのようなことができるのか議論を深める意見交換をさせていただきたいという要望があった。

主な意見は以下のとおりである。

### 【主な意見】

- ・社会人のリカレント教育について検討している状況から、社会に出てからも学び続ける学びづくりについて、どのような科目を学びたいか小林氏のご意見を伺いたい。今後ニーズ調査の実施も考えており、改めて温泉道場様にご相談させていただきたい。
- ・地元企業として地域に対して何ができるか常に考えており、武蔵野ヒートベアーズとの連携事業などできないか。
- ・温泉道場様の事業がここまで多岐に渡っているとは思わなかった。地元で学び地元で就職した小林氏の立場から、採用に関して学生に企業を知ってもらうため、TJUP とどのようなことができるかと考えていらっしゃるか。  
⇒温泉道場は独自の採用を行っており、採用説明会をイベントのような形でサウナ説明会、店舗説明会を実施している。
- ・温泉道場様では学生の力をどのようなところで必要とされているのか。  
⇒店舗の事業再生をしていくことが一番難しいと感じているが、学生の自由な発想、制約のないアイデアを求めている。先を見据えた事業を行っているので、学生の発想を大切にしている。
- ・これから地元企業と何をしたいかかと考えているところで、何ができるのか。大学側が企業の施設に行っイベントに参加したり、温泉道場様に大学の学園祭に来ていただいたり、相互での行き来やお互いの知識を活かすこともできるのではないかと。まずはどのようなことができるのか議論を深めたい。
- ・法人化のきっかけを探っているところから、企業と組む場合に何が必要かぜひご意見をいただきたい。

以上